

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ こども指針(仮称)ワーキングチーム(第5回)	資 料 1-1
平成23年5月26日	

教育・養護のねらい及び内容(案)

平成23年5月26日

第5回 こども指針(仮称)ワーキングチーム資料

目 次

1. 教育のねらい及び内容について	
(1)内容構成について.....	2
(2)乳幼児の発達に応じた教育の内容について	5
2. 養護のねらい及び内容について	
(1)内容構成について.....	7
(2)乳幼児の発達に応じた養護の内容について	9

1. 教育のねらい及び内容について

(1) 内容構成について

ア. 現状

- 幼稚園教育要領と保育所保育指針は、従来より、その内容の整合性を図ってきており、教育のねらい及び内容については、おおむね共通している。

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の教育内容は、子どもの発達の側面からまとめた、5つの領域（「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」）からなり、各領域は「領域の意義付け」「ねらい」「内容」で構成されている点が共通している。（【資料1－2】p3, 5, 7, 9, 11参照）

- 一方、幼稚園教育要領と保育所保育指針の構成内容には一部違いがある。

・幼稚園教育要領では、各領域ごとに「内容」に関する留意事項を「内容の取扱い」として示し、保育所保育指針では、「内容の取扱い」は無く、各領域共通の事項について「保育の実施上の配慮事項」を示している。（【資料1－2】p4, 6, 8, 10, 12, 13～14参照）

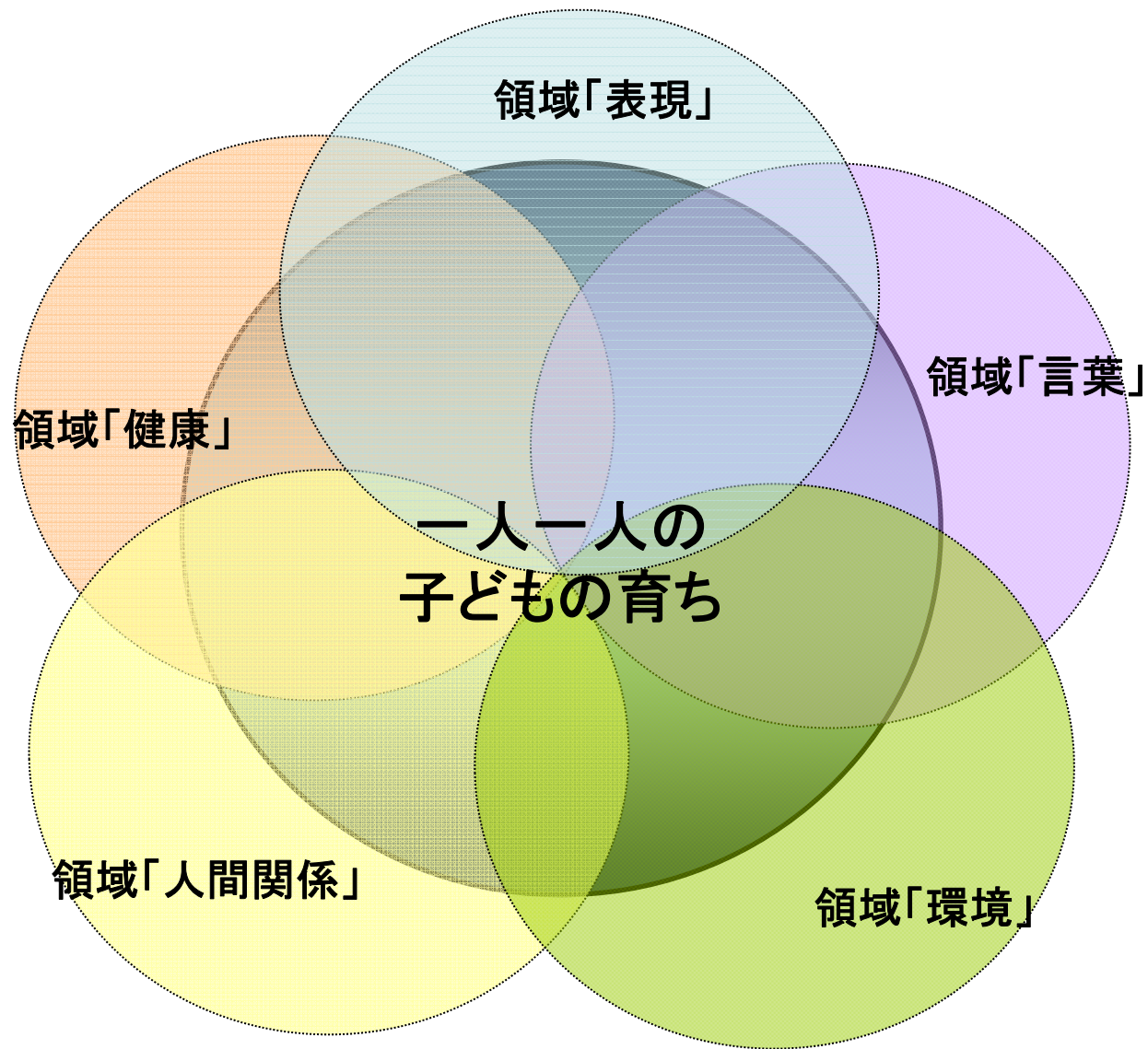
・幼稚園教育要領と保育所保育指針で示している内容項目の一部に違いがある。
（【資料1－2】p3, 5, 7, 9, 11参照）

・ねらいや内容の表記の一部に違いがある（例：教育要領「もつ」、保育指針「持つ」等）

⇒【資料1－2】幼稚園教育要領・保育所保育指針対照表p2～14を参照

（健康、人間関係、環境、言葉、表現（ねらい、内容、内容の取扱い）、保育の実施上の配慮事項 等）

子どもたちの育ちと5領域(イメージ図)



生きる力の基礎を育成

※発達の側面から5つの領域を示している。これらは、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものである。

(1) 内容構成について

イ. 論点

- ① 「こども指針(仮称)」の教育のねらい及び内容については、現行の幼稚園教育要領及び保育所保育指針と同様、5つの領域(「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」)で構成することとしてはどうか。
- ② 幼稚園教育要領と保育所保育指針で一部異なっている各領域の構成については、「こども指針(仮称)」では、その整合性を更に図り、各領域を「領域の意義付け」、「ねらい」、「内容」で構成することとしてはどうか。
- ③ 現行の幼稚園教育要領の「内容の取扱い」や保育所保育指針の「保育の実施上の配慮事項」を基に、その整合性を更に図り、教育の「内容」に関係の深い留意事項を各領域ごとに規定することとしてはどうか。
- ④ 幼稚園教育要領と保育所保育指針で一部異なっている内容項目や表記については、「こども指針(仮称)」では、その整合性を更に図り、原則として共通化することとしてはどうか。

(2) 乳幼児の発達に応じた教育の内容について

ア. 現状

- 幼稚園教育要領では、従前より、満3歳から小学校就学前の幼児に対し、幼稚園教育全体を通して幼児に育つことが期待される心情、意欲、態度などのねらいを達成するために、教師が指導し、幼児が身に付けていくことが望まれるものを全年齢共通の教育の内容として示している。
- 保育所保育指針では、以前は6か月未満児から6歳児までの8つの発達過程区分ごとに保育の内容を示していたが、内容の大綱化を図る観点から、乳幼児期に育ち経験することが望まれる基本的な事項を全年齢共通の教育の内容として示している。
その上で、乳児、3歳未満児、3歳以上児など発達過程に応じた特有の配慮事項を「保育の実施上の配慮事項」として示している。（【資料1－2】p13～14参照）

⇒【資料1－2】幼稚園教育要領・保育所保育指針対照表p2～15を参照

（健康、人間関係、環境、言葉、表現、保育の実施上の配慮事項（乳児、3歳未満児、3歳以上児 等） 等）

⇒【資料1－3】平成11年保育所保育指針（抄）（保育の内容関係）を参照

（6か月未満児、6か月から1歳3か月未満児、1歳3か月から2歳未満児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児、6歳児）

(2) 乳幼児の発達に応じた教育の内容について

イ. 論点

- ① 全年齢共通の事項として示されている、現行の幼稚園教育要領及び保育所保育指針の教育の内容を踏まえて、「こども指針(仮称)」の具体的な「内容」を規定するものとするが、乳児、3歳未満児、3歳以上児など乳幼児の発達の特性に一層応じた教育を行うために必要な内容として、他にどのような事項が考えられるか。
- ② 乳幼児の発達の特性に応じた教育を行う観点から、幼稚園教育要領や保育所保育指針を基に、乳児、3歳未満児、3歳以上児のそれぞれの発達の特性に応じた留意事項を規定することとしてはどうか。

2. 養護のねらい及び内容について

(1) 内容構成について

ア. 現状

- 保育所保育指針では、「養護」は、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりとして、「生命の保持」「情緒の安定」の2つの領域からなり、各領域は「ねらい」「内容」で構成されている。

(【資料1－2】p16～17参照)

- 養護の各領域には、教育の各領域の冒頭に記載されている「領域の意義付け」は示されていない。また、「内容の取扱い」も規定されていないが、乳児、3歳未満児、3歳以上児など発達過程に応じた特有の配慮事項を「保育の実施上の配慮事項」として示している。(【資料1－2】p18～19, 20参照)

⇒【資料1－2】幼稚園教育要領・保育所保育指针对照表p16～19を参照

(養護(生命の保持、情緒の安定)、保育の実施上の配慮事項(乳児、3歳未満児、3歳以上児 等))

(1) 内容構成について

イ. 論点

- ① 「こども指針(仮称)」の「養護」は、現行の保育所保育指針と同様、「生命の保持」「情緒の安定」の2つの領域で構成することとしてはどうか。
- ② 養護の各領域の構成については、現行の保育所保育指針と同様、「ねらい」「内容」で構成するほか、教育の各領域と同様に、領域の冒頭に「領域の意義付け」を新たに示すこととしてはどうか。
- ③ 現行の保育所保育指針の「保育の実施上の配慮事項」を基に、養護の「内容」と関係が深い留意事項を各領域ごとに規定することとしてはどうか。

(2) 乳幼児の発達に応じた養護の内容について

ア. 現状

○ 保育所保育指針では、以前は6か月未満児から6歳児までの8つの発達過程区分ごとに保育の内容を示していたが、内容の大綱化を図る観点から、どの発達区分にも共通する基本的な事項を全年齢共通の養護の内容として示している。

その上で、乳児、3歳未満児、3歳以上児など発達過程に応じた特有の配慮事項を「保育の実施上の配慮事項」として示している。

⇒【資料1－2】幼稚園教育要領・保育所保育指针对照表p16～19を参照

(養護(生命の保持、情緒の安定)、保育の実施上の配慮事項(乳児、3歳未満児、3歳以上児 等))

⇒【資料1－3】平成11年保育所保育指針(抄)(保育の内容関係)を参照

(6か月未満児、6か月から1歳3か月未満児、1歳3か月から2歳未満児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児、6歳児)

(2) 乳幼児の発達に応じた養護の内容について

イ. 論点

- ① 全年齢共通の事項として示されている、現行の保育所保育指針の養護の内容を踏まえて、「こども指針(仮称)」の具体的な「内容」を規定するものとするが、乳児、3歳未満児、3歳以上児など乳幼児の発達の特性に一層応じた養護を行うために必要な内容として、他にどのような事項が考えられるか。
- ② 乳幼児の発達の特性に応じた養護を行う観点から、保育所保育指針を基に、乳児、3歳未満児、3歳以上児のそれぞれの発達の特性に応じた留意事項を規定することとしてはどうか。